








インフォメーション・コーナー

会 告

学会正会員のうち 60 歳以上 66 歳未満の会費改定に係る農業土木学会規則の一部改正について.....	82
平成 19 年度農業土木学会賞の決定について	82
平成 20 年度農業土木学会賞候補の推薦について	83
研究部会長の交代について.....	83
平成 19 年度学術基金援助の決定について	84
平成 19 年度「研究グループ」の助成金募集について（再）	84
平成 19 年度農業土木学会大会講演会の開催について（第 3 報） 	85
第 31 回水の週間「ウォーターフェア 07 東京」農業用水の展示出展について.....	85
第 31 回水の週間記念第 22 回“水とのふれあい”フォトコンテスト.....	85
2006 年度農業工学関連分野 JABEE 認定校および認定プログラムの決定	86
平成 19 年度農学系 JABEE 研修会への参加のお願い（再） 	86
学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集！！	86
平成 19 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について	87
「農業土木学会学術基金」の募集について.....	87
農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのごお願い.....	88
環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針 「農業農村整備事業における生態系配慮の技術指針」発行のお知らせ	88
国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のごお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について.....	89
国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のごお願いと編集事務局（投稿先）のお知らせ	89
農業土木学会誌への投稿お待ちしております！	90
身近にある水利遺構で表紙を飾ろう！！「水土の知（農業土木学会誌）」平成 20 年春季の表紙写真の募集.....	91
支部講演会の投稿票について.....	91
第 58 回関東支部大会講演会の開催について（第 1 報） 	91
第 64 回京都支部研究発表会の開催について（第 1 報） 	92
第 62 回中国四国支部講演会の開催について（第 1 報） 	92
第 36 回中国四国支部研修会・第 31 回地方講習会の開催について（第 1 報） 	93
平成 19 年度農村計画研修会（第 29 回現地研修集会）について 	93
国際水田・水環境工学会 2007 年（第 6 回）国際研究集会の開催について	94
ICID 第 20 回総会における発表論文の募集について	95
農業土木学会論文集第 249 号内容紹介.....	97
学会記事	100

第 75 巻 7 号予定

展望：開発途上国への持続循環型農業農村開発支援を目指して：西牧 隆壯

小特集：持続循環型の農業農村へ向けた技術開発

持続循環型農業農村技術開発アジア「緑の革命」とアフリカ「虹色の革新」：高瀬 国雄

EU における住民参加による持続的な農村開発の政策的支援：八木 洋憲他

発展途上国における持続循環型農業農村開発事例研究：中村 義文他

宮古島における持続循環型農業農村開発事例研究：凌 祥之他

技術リポート

北海道支部：露地・施設栽培が混在する地域の畑地灌漑用水の適正化：南部雄二他

東北支部：防潮水門建設工事による八郎潟漁業への影響について：瀬田文治他

関東支部：水没した取水樋管の診断調査について：浜名 徹

京都支部：世代をつなぐ農村環境保全のための共同活動の推進について：岸本 悟


中四国支部：ため池堤体改修における盛土荷重載荷工法による軟弱地盤対策事例：若林裕樹
















九州支部：勾配修正の赤土等流出防止対策効果について：砂辺千寿子他

小講座：PIM（住民参加型灌漑管理）：岡本 雅美

農業土木学会行事の計画

農業土木学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちしております。

のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 19 年 8 月 28 ~ 31 日	大会運営委員会	平成 19 年度農業土木学会大会 		松江市	74 巻 12 号 75 巻 1, 3 号
平成 19 年 9 月 6, 7 日	農村計画研究部会	第 29 回現地研究集会 		奈良市	75 巻 2 号
平成 19 年 9 月 20, 21 日	農地保全研究部会	第 28 回研究集会 		美瑛町	75 巻 4 号
平成 19 年 10 月 18, 19 日	九州支部	第 88 回講演会・第 30 回地方講習会 		佐賀市	75 巻 5 号
平成 19 年 10 月 24 ~ 26 日	資源循環研究部会	平成 19 年度研究発表会 		東京都	75 巻 4 号
平成 19 年 10 月 25, 26 日	関東支部	第 58 回支部講演会 		水戸市	75 巻 6 号
平成 19 年 10 月 25, 26 日	中国四国支部	第 62 回研究発表会 		宇和島市	75 巻 6 号
平成 19 年 10 月 30 日	北海道支部	第 57 回研究発表会 		札幌市	
平成 19 年 10 月 31 日	東北支部	第 51 回研究発表会 		福島市	
平成 19 年 11 月 1 日	東北支部	第 41 回支部研修会 第 31 回地方講習会 		福島市	
平成 19 年 11 月 8, 9 日	京都支部	第 64 回研究発表会 		和歌山市	75 巻 6 号
平成 19 年 11 月 8, 9 日	水文・水環境研究部会	第 20 回シンポジウム 		岡山市	75 巻 5 号
平成 19 年 11 月 15, 16 日	中国四国支部	第 36 回支部研修会 第 31 回地方講習会 		広島市	75 巻 6 号
平成 19 年 11 月 20 日	北海道支部	第 34 回支部研修会 		札幌市	
平成 20 年 1 月 31 日	北海道支部	地方講習会 		札幌市	

学会正会員のうち 60 歳以上 66 歳未満の会費改定に係る 農業土木学会規則の一部改正について

(社)農業土木学会では、第 200 回理事会(平成 19 年 3 月 28 日)において、平成 19 年 4 月 1 日より 60 歳以上 66 歳未満の会員の年会費を改訂することとし、農業土木学会規則第 9 条第 1 項に、同(60 歳以上 66 歳未満(大学及び研究機関所属の者は除く。))年額 7,200 円とする一部改正を行いました。

記

会費(年額)[規則抜粋]

正会員

年額 9,600 円

同(60 歳以上 66 歳未満(大学及び研究機関所属の者は除く。))

年額 7,200 円

同(66 歳以上)

年額 4,800 円

学生会員(大学院生)

年額 5,500 円

同(学部学生)

年額 2,500 円

この改正は、シニア会員の豊富な経験・知識を当学会の支えとしてお力添え賜りたいとする趣旨によるものです。是非皆さまのご理解を頂き、会員資格の継続、あるいは新規ご入会を頂きますようお願い致します。

平成 19 年度農業土木学会賞の決定について

平成 19 年度の農業土木学会賞は、平成 19 年 5 月 10 日(木)の理事会において、学術賞 3 件、研究奨励賞 4 件、優秀論文賞 3 件、優秀技術賞 2 件、優秀技術リポート賞 6 件、著作賞 1 件、教育賞 2 件、環境賞 2 件、歴史・文化賞 2 件、地域貢献賞 1 件、メディ

ア賞 2 件、功労賞 5 件、上野賞 3 件、沢田賞 3 件が決定いたしました。授与式は、来る 8 月 28 日(火)に「くにびきメッセ」(鳥根県立産業交流会館)国際会議場で行われます。なお、詳細は本号巻頭平成 19 年度農業土木学会大会講演会ページを参照下さい。

平成 20 年度農業土木学会賞候補の推薦について

平成 20 年度の農業土木学会賞（上野賞、沢田賞を除く）を、募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切りは、平成 19 年 10 月末日となっております。推薦書様式は学会 HP をご参照下さい。

平成 20 年度 農業土木学会賞 募集要項

賞の種別	学術賞	奨励賞		優秀賞		
		研究奨励賞	技術奨励賞	優秀論文賞	優秀技術賞	優秀技術リポート賞
賞の趣旨	農業土木に関する学術または技術の進歩に貢献した創意ある優秀な業績	農業土木に関する学術または技術の進歩に寄与すると認められる優秀な業績		農業土木に関する学術または技術についての優秀な業績		
賞の対象範囲および期間	平成 14 年 10 月から平成 19 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 16 年 10 月から平成 19 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 16 年 10 月から平成 19 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文等を原則とする。ただし、同一の課題につきそれ以前に発表されたものは、一連の業績として対象とすることができる。	平成 18 年 10 月から平成 19 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文等を原則とする。	平成 17 年 10 月から平成 19 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された論文等を原則とする。主として現場調査資料、現場技術報告書から選ぶ。	平成 14 年 10 月から平成 19 年 9 月までに、本学会の刊行物に発表された技術リポート（ただし、平成 20 年度の募集は農業土木学会誌 74 巻 1 月号～75 巻 9 月号が対象となります）
受賞候補者	会員			会員または会員の属する組織・団体		会員
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。			正会員の自薦、他薦または学会誌・論文集の編集委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。		

賞の種別	著作賞	教育賞	環境賞	歴史・文化賞	地域貢献賞	国際貢献賞	メディア賞	功労賞
賞の趣旨	一般に市販されている図書の中で、農業土木に関する学術または技術を広く世に紹介することに顕著な貢献をなしたと認められる著者	農業土木教育、農業土木技術者の継続教育など資質の向上に寄与したと認められる活動で優れた業績	農業・農村の生産・生活環境の改善や生態系保全など、美しい環境の保全や創出において優れた計画および施工の事例並びに管理・保全活動	農業土木に関する歴史・文化を広く紹介または研究分析の業績	農村地域社会の発展・活性化に貢献した業績	農業土木に関する学術・技術についての国際的な交流・調査研究で優れた業績	農業土木を紹介した優れたパンフレット・ビデオ作品、教材スライド、映画等	長年にわたる、地道な教育・研究または実務の積重ねを通じて、農業土木の学術または技術の進歩発展に多大な功労のあったと認められる者
賞の対象範囲および期間	平成 9 年 10 月から平成 19 年 9 月までに出版されている一般の図書。ただし、ハンドブック・便覧の類の著書および翻訳書は対象としない。また、改訂版にあたっては全面改訂したものを対象とする。	平成 14 年 10 月から平成 19 年 9 月までの業績を対象とする	平成 17 年 10 月から平成 19 年 9 月までに本学会の刊行物または、関係する図書に発表されたもの。また、完工した建設物、維持保全管理活動等も対象とする。	平成 14 年 10 月から平成 19 年 9 月までの業績を対象とする	平成 14 年 10 月から平成 19 年 9 月までの活動を対象とする	平成 14 年 10 月から平成 19 年 9 月までの活動を対象とする	平成 17 年 10 月から平成 19 年 9 月までに発表された、農業土木に関連した作品を対象とする。	平成 19 年度末に 65 歳以上に達している個人
受賞候補者	著者 会員の資格の有無を問わない	会員または会員の属する組織・団体	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員または会員の属する組織・団体	会員	会員の資格の有無を問わない 個人または組織・団体	会員（名誉会員を除く）
推薦の方法	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または農業土木技術者継続教育機構運営委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦、他薦または国際委員会の推薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。推薦者は業績（コピー可）を 1 部提出する（何れも返却しない）。	正会員の自薦または他薦による。推薦者は推薦書により会長宛推薦する。

選考の方法	学会賞選考委員会において行う
賞の決定	理事会において行う
表彰	農業土木学会大会講演会において会長が授与する
推薦締切	平成 19 年 10 月末日
提出先	〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 社団法人 農業土木学会 学会賞選考委員会宛

研究部会長の交代について

下記の研究部会長の交代が行われました。

農業土木学会土壌物理研究部会（平成 19 年 4 月 1 日付）

新 取出 伸夫（三重大学生物資源学部）

前 宮崎 毅

農業土木学会農村計画研究部会（平成 19 年 4 月 1 日付）

新 山路 永司（東京大学大学院新領域創成科学研究科）

前 松尾 芳雄

平成19年度学術基金援助の決定について

学術基金運営委員会

平成19年度学術基金の援助は、平成19年5月10日開催の第201回理事会にて、下記のように決定いたしました。

記

< 研究奨励援助者 >

研究課題	代表者	共同研究者
ラオス中山間地における複合農業システムのフィジビリティ調査	福田信二	Manythong Chanhson 九州大学熱帯農業研究センター 修士1年
乾燥地灌漑農業における水および塩分の循環構造の解明	中尾千晶	長野宇規(36)総合地球環境学研究所 研究員久米 崇 鳥取大学乾燥地研究センター研究員

< 国際学術会議出席援助者 >

申請者	申請者所属	出席会議	場所・期日
多炭雅博	宮崎大学農学部地域農業システム学科 助教授	USCID Fourth International Conference ICID アメリカ国内委員会第4回国際会議	米国サクラメント 2007.10.3 ~ 2007.10.5

平成19年度「研究グループ」の助成金募集について(再)

研究委員会

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は、原則1件20万円程度3件以内です。

本年度の申請締切は、平成19年6月29日(金)ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会HP参照)で研究委員会委員長宛にお申込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたしません。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

- 1 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
- 2 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
- 3 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として1年とする。
- 4 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に36歳未満であること。

- 5 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注1) 研究経過報告書の執筆にあたり、農業土木学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷り上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

注2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

平成 19 年度農業土木学会大会講演会の開催について（第 3 報）

平成 19 年度農業土木学会大会運営委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



平成 19 年度農業土木学会大会講演会は、平成 19 年 8 月 28 日（火）、29 日（水）、30 日（木）の 3 日間、松江市の島根大学松江キャンパスで開催されます。また、31 日（金）には、現地研修会を実施する予定です。

本報では、講演発表の手順など、いくつかの連絡事項についてお知らせします。

なお、割引のある大会参加申込みは 6 月 29 日（金）が締切となっています。まだお申込みでない方は、学会ホームページからお申込みください。参加申込みの詳細は、3 月号会告をご覧ください。

1. 講演発表の手順

学会での発表は 1 月号の会告通り、PC を用いたプロジェクターでの発表になります。各自 PC をお持ち下さい。PC の外部出力の切り替え器（映像入力端子 2 つ）を各会場に一つ用意します。ひとつ前の発表の時に接続を完了させておいてください。発表後、画面の切り替えですぐに次の発表に移ります。円滑な進行にご協力ください。

2. 会場の使用について

部会会議などで会場を使用する場合は 7 月 31 日（火）までに木原 康孝委員（kihara@life.shimane-u.ac.jp）へ、会議名、使用希

望日時、参加予定人数、連絡責任者を E-Mail でご連絡下さい。連絡のあった順に会場を用意します。なお、会場の都合上、希望される部屋の規模が確保できない場合がありますのでご了承下さい。

3. ポスター発表について

ポスター発表は教養講義室 1 号館で行います（部屋の詳細は会場でお知らせします）。ポスター会場に、ポスター賞のための投票用紙を用意しますので、おひとり一枚お取り頂き、賞にふさわしいと思われるポスターについて御投票下さい。大会二日目（8 月 29 日）の 14 時 30 分に投票を締め切り、その後、16 時 30 分からポスター会場に於いて優秀なポスターについて賞を授与します。なお、紛失を防ぐために投票用紙はポスター会場でお渡しします。

4. ポスター発表の手順

ポスター発表をされる方は、横 90 cm × 縦 150 cm まで（縦長）を目安にポスターをお作り頂き、ポスター会場にご持参下さい。ピンなどは島根大学側で用意します。大会二日目（8 月 29 日）の 10 時までに掲示し、10 時 30 分からのコアタイムには著者がポスター前で説明が出来るよう、準備してください。回収は当日 16 時 30 分からのポスター賞授与後に、発表者各自でお願いします。

第 31 回水の週間「ウォーターフェア 07 東京」農業用水の展示出展について

農業用水展示実行委員会

国土交通省、東京都、水の週間実行委員会主催『ウォーターフェア 07 東京』は、例年同様「水の週間」の一つのイベントとして行われます。今年も「水の展示会」に農業用水部門として、農業土木関係諸団体の協力を得て、農業土木学会が農業用水展示実行委員会を組織し、昨年度までと同様に展示の準備を進め出展するこ

ととなりました。

多くの方の来場をお待ちしております。

展示の場所 科学技術館（千代田区北の丸公園 2 - 1）

期 日 平成 18 年 7 月 27 日～7 月 30 日

第 31 回水の週間記念

第 22 回“水とのふれあい”フォトコンテスト

テーマ

- ・水辺の憩い、水のある風景
- ・くらしの中で毎日使う水
- ・作物や草木を育て、エネルギーを生む水
- ・ダムや水路など水をつくる施設
- ・歴史とともにある街の中の水 等

応募サイズ カラープリント（キャビネ以上ワイド 4 切まで）・デジタルプリントは A4 サイズも可

応募先およびお問い合わせ

〒107 0052 東京都港区赤坂 6 2 8（財）水資源協会内水の週間実行委員会事務局 第 22 回水とのふれあいフォトコンテスト係宛 ☎03 3584 4166（代）

2006年度 農業工学関連分野 JABEE 認定校および認定プログラムの決定

2006年度に農業工学関連分野として日本技術者教育認定機構 (JABEE: Japan Accreditation Board for Engineering Education) へ、プログラム認定を申請していた右記3校3プログラムは、平成19年5月14日のJABEE理事会をもってすべて認定を受けました。(なお、2006年度までに認定を受けた全プログラムはJABEEのホームページに掲載されています。http://www.jabee.org/OpenHomePage/program-2006.htm)

高等教育機関名	プログラム名
島根大学 生物資源科学部	地域開発科学科 地域工学コース [2006]
鳥取大学 農学部	生物資源環境学科 環境共生科学コース 地域環境工学プログラム [2006]
北里大学 獣医畜産学部	生物生産環境学科 環境創造技術プログラム [2006]

平成19年度農学系 JABEE 研修会への参加のお願い(再)

技術者教育認定に関する検討委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



本年も農学系 JABEE 審査員養成研修会が7月28日に東京大学弥生講堂にて開催されます。多くの皆様の参加を期待しております。奮って、ご参加ください。

(なお、プログラム等、詳細は農業土木学会ホームページをご参照下さい)

日 時: 2007年7月28日(土) 9:30~17:30 (17:30より
情報交換会有)

場 所: 東京大学弥生講堂
〒113 8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農
学部内

http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/

参加費: 5,000円(当日現金にて支払い)

情報交換会費: 2,000円(当日現金にて支払い)

申込み方法: 農業土木学会ホームページより、申込書および審査員登録票(電子メール版)をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記の学会に電子メールで申込み。

申 込 先: 農業土木学会事務局 菊辻 猛・花塚賀央

hanatsuka@jsidre.or.jp

締切:平成19年7月12日(木)

学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

農業土木学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10cpd、また、通信教育で最大年間18cpdで取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農業土木学会のホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)にある参加申込書に必要事項を記載してメール(E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp)あるいはFAX(03 5777 2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業土木学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>)に申込様式がありますので、ご記入の上お申し込みください。

2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

3. 事務局

機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。(TEL.03 5777 2098)

4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実に基づいて作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPD、満点で1.5CPDが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

平成 19 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について

研究委員会戦略的研究推進小委員会

農業土木分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は 60 万円程度(平成 19 年度、原則 1 件 20 万円以内)です。

本年度の申請締切は平成 19 年 9 月 14 日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申込みください。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状況、将来の展望など)を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業土木学の意義と役割を対外的に示すことに貢献すること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が二つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後 1 年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出及び審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

「戦略的研究申請書作成」の助成金申請様式

締切(平成 19 年 9 月 14 日)

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長宛(tkiku@jsidre.or.jp)

必要記載事項：

- (1) WG 名(または部会名)
- (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属
- (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500 字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

「農業土木学会学術基金」の募金について

農業土木学会は、農業土木の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業土木学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成 3 年 4 月に学術基金を創設、上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等によることとしてきました。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成 17 年度までに 40 件の実績をあげています。

個人会員一口 5,000 円(何口でも可)

法人会員一口 50,000 円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行日比谷支店

普通預金 No.1569058 口座名(社)農業土木学会学術基金

郵便振替：00140 2 54031 加入者名 農業土木学会学術基金

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では、近年における地震、豪雨等による災害が各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置しています。

この災害対応特別委員会では、農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害、学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じた時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される方に事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された会員は、災害対応調査団候補者名簿(2年毎更新)に記載して、緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下のとおりです。

調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

調査団の派遣期間は、原則2~3日とする。

調査団派遣に関わる旅費は、農業土木学会が後日精算する(年度予算限度額300万円)。

調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。

調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03 3435 8494, E-mail saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。様式は農業土木学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)よりダウンロードし、お申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、災害対応調査にのみ活用し、適切に取扱います。

環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針 「農業農村整備事業における生態系配慮の技術指針」発行のお知らせ

この度、環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針「農業農村整備事業における生態系配慮の技術指針」が発行されましたので、お知らせいたします。

購入希望の方は、下記要領にてお申込下さい。

書籍名...「環境との調和に配慮した事業実施のための調査計画・設計の技術指針農業農村整備事業における生態系配慮の技術指針」

価格...3,300円(消費税内税,送料学会負担)

規格...A4版 約170ページ

申込方法

I. 役所等で、公用として購入される場合

ファックスかメールでお申込ください。様式は問いません。

ご希望冊数、送付先住所、請求書の宛名をご記入ください。

II. 個人、会社で購入される場合

現金書留:書籍代金と、書籍名、冊数を書いた文書をご同封ください。

郵便振替(00160-8-47993):振替用紙の通信欄に書籍名、冊数をご記入ください。

申込先

〒105 0004 東京都港区新橋5-34-4

(社)農業土木学会事務局 河合あて

☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494

E-mail:maki@jsidre.or.jp

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering:PAWEES) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2007年3月末には Vol 5 No.1 が発刊されました。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関する研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象

環境)

- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

水田農業を通じた国際的な研究交流, 情報交換の場として, 皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと, 会員には国際ジャーナルが, 無料で配布されます。

出版社: Springer-Verlag 社 (ドイツ)

発刊スケジュール: 2003年3月創刊, 以後3カ月ごと

国際学会会費: 正会員 12,000 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

学生会員 (院生含む) 8,500 円/年/4 冊 (送料等学会負担)

申込先: 農業土木学会編集出版部 馬目宛

ホームページ: <http://www.jsidre.or.jp>

入会のお申込みは, 学会 HP <http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm> の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ, メールまたは FAX でお申込みいただけます。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2007年3月末には Vol 5 No.1 が発刊されました

我が国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りませんが、**投稿料, 掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

投稿先: PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG
International Society of Paddy and Water Environment Engi-

neering (PAWEES)

KOFST - Main Building # 205

635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.

Tel : +82 2 562 3627, 562 3613 Fax : +82 2 565 6821

Email : sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)

(During Jan.2006 to Dec.2008)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水, 土壌保全, 土地資源や水資源の保全と管理, 水田の多面的機能, 農業政策, 地域計画, バイオ環境システム, 生態系の保全, 水田保全, 田畑輪換等 である。

編集体制 2006 .1 .1 ~ 2008 .12 .31)

• Editor in Chief : Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironment Sciences, Kyushu University, Japan

• Editors 13 カ国から 14 名

• Editing Board 32 名

• Managing Editors

Chief Managing Editor : Dr. Soon-Jin HWANG
 Department of Environmental Science, Konkuk University,
 Seoul, Korea

Dr. Yutaka MATSUNO
 Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

Dr. Masaru MIZOGUCHI
 Department of Global Agricultural Science, University of
 Tokyo, Tokyo, Japan

Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN)
 Kyoto, Japan

Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG

Department of Bioenvironmental System Engineering, Na-
 tional, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

出版社 : Springer Verlag 社 (ドイツ)

投稿資格 : 筆者全員が国際学会員であること。

投稿要領等 : <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！

農業土木学会誌編集委員会

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業土木学会ホームページ

に掲載の「農業土木学会誌投稿要項」,「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌 75 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1 500 字以内)	原 稿 締 切 (刷り上り 4 ページ厳守)
10 号 農業農村分野における GIS の活用 (仮)	公募終了	平成 19 年 6 月 15 日
11 号 電磁波計測技術の農業農村工学分野への活用 (仮)	"	平成 19 年 7 月 13 日
12 号 農業用水の利用形態の変化について (仮)	平成 19 年 7 月 24 日	平成 19 年 8 月 15 日
76 巻 1 号 農業水利施設の大規模地震対策の取組みについて (仮)	平成 19 年 8 月 24 日	平成 19 年 9 月 14 日

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷り上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105 0004 東京都港区新橋 5 34 4 (社) 農業土木学会 学会誌編集委員会あて
 ☎03 3436 3418 FAX 03 3435 8494 E mail henshu@jsidre.or.jp

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勤める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと思います。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

オフィス便りは、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」,「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは、刷り上がり 1 ページ (1 800 字程度) で、写真を 1 ~ 2 枚程度入れてください。

私の勤める本は、原稿の長さ : 1 200 字 (写真・体裁等含む刷り上がり 1 ページ以内原稿には表紙の写真を含めて下さい)

第 75 巻 12 号テーマ「農業用水の利用形態の変化について (仮)」

農村地域では、混住化や高齢化の更なる進展により社会環境が急激に変化し、農業用水の利用機会や管理する担い手の減少といった、農業水利システムの管理上の課題が生じています。これに対応すべく、新農業水利システム保全対策事業 (H 16 ~) 等により、

農業の構造改革と施設管理の省力化にむけた取組みがなされています。

一方で、地球温暖化との関連ははっきりしないものの、北日本では夏季の気温が上昇しており、既往の営農を行うと乳白米とな

る可能性が高いことから、田植え時期を遅らせることが推奨されています。また、降雨パターンが変化し、短期間の豪雨が増える傾向にあります。このように、地域の気象条件や水循環過程も少しずつ変化しており、これに対応した農業や水利用が求められています。

農業水利システムは農業の根幹を支えるものであり、農業農村

を取り巻く環境が急激に変化する中でさまざまなニーズに対応するためには、より細やかで機動的な利用管理が求められるところです。そこで、古くて新しい課題である農業水利システムの管理に焦点をあてて、変化する管理体制、生じる課題、もしくは、それに対する解決策にかかる報文を広く募集します。

身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!! 「水土の知(農業土木学会誌)」平成20年春季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成20年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。テーマは昨年と同様で「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第76巻(平成20年1~12月号)のうち、特に春季の表紙写真を募集します。ふるってご応募ください。

記

1. 趣旨

これまで農業土木技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかっていくようです。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのない風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

そこで、少しずつ初夏の兆しを感じられるこの時期に、「春」を感じられる目に涼しい「水利遺構」の写真を募集いたします。こ

の機会にちょっと足をのばして「春」を感じてみるものいかがですか。

2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで(デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定)撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記してください。

3. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

4. 締切 平成19年6月30日(春季の写真)

5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意ください。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる(花などの情緒物に埋没しない)、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

支部講演会の投稿票について

支部講演会への投稿要領のうち、原稿や投稿票の作り方の統一された部分を一括して学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp>)に掲載しますので、支部講演発表希望者各位は、投稿票と同じ項目のファイルの入ったフロッピーディスクを各支部講演会担

当者宛ご提出下さい。

ただし、各支部の投稿規定等別途指示がある場合は、各支部の投稿規定に従って下さい。

第58回関東支部大会講演会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育認定プログラム



1. 日時

- (1) 支部大会、講演会、情報交換会
平成19年10月25日(木) 時間未定
- (2) 現地研修会
平成19年10月26日(金) 時間未定

2. 場所

- (1) 支部大会、講演会
茨城県水戸市笠原町 978-26

『茨城県市町村会館』

- (2) 情報交換会
未定
- (3) 現地研修会
未定

3. 参加申込み

- (1) 講演会、情報交換会、現地研修会
上記申込み締切日：平成19年8月31日(金)

(2) 講演申込み

申込み締切日：平成 19 年 7 月 31 日（火）

原稿締切日：平成 19 年 8 月 31 日（金）

講演申込み希望者は、「講演者所属及び氏名」、「演題（仮題でも可）」、「講演要旨（200 字以内）」を明記のうえ、下記事務局まで申込みください。

茨城県農林水産部農地局農村計画課

〒310 8555 茨城県水戸市笠原町 978 6

☎029 301 1111（代表）内線 4131 or 4145

FAX 029 301 4169

5. その他

詳細は本誌 8 月号に掲載予定です

4. 問合せ先（事務局）

第 64 回京都支部研究発表会の開催について（第 1 報）

農業土木技術者継続教育認定プログラム



1. 研究発表会

日時 平成 19 年 11 月 8 日（木）10：00～17：00

場所 和歌山県民文化会館（和歌山市小松原通 1 1 1）

アパローム紀の国（和歌山市湊通丁北 2 1 2）

2. 情報交換会

日時 平成 19 年 11 月 8 日（木）18：00～20：00

3. 現地研修会

日時 平成 19 年 11 月 9 日（金）9：00～17：00

4. 研究発表申込

発表希望者は、投稿原稿に先立ち、表題（仮題でも可）、発表者名、所属、年齢（研究奨励賞対象者のみ）、連名者名、所属、年齢（研究奨励賞対象者のみ）、希望発表部門（水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震、その他）、発表者の連絡先電話番号、発表者の E メールアドレス（利用可能な場合）を記入した申込書（様式任意）を、E メールか FAX でお送りください。ただし、発表者は学会員に限らせていただきます。

なお、京都支部では、大学、短期大学、研究機関に所属する発表時 35 歳以下の会員（学生会員も含む）によって口頭発表された優秀な研究に対し、研究奨励賞を授与しています。同賞の

授賞基準に該当する方（35 歳以下の連名者を含む）は、必ず申込書に年齢を記入してください。

投稿の詳細な要領は 7 月号に掲載いたします。

5. 発表申込先

〒501 1193 岐阜市柳戸 1 1

岐阜大学応用生物科学部 生物環境科学講座 西村 直正

& Fax 058 293 2883

E-mail: nnishi@gifu-u.ac.jp

6. 申込期限

(1) 発表申込 平成 19 年 6 月末日

(2) 原稿締切 平成 19 年 7 月末日

(3) 参加申込 平成 19 年 8 月末日

参加申込については、会誌 7 月号掲載予定の第 2 報を参照してください。

7. 問合せ先

和歌山県農林水産部農村計画課内

第 64 回農業土木学会京都支部研究発表会運営委員会事務局

担当 高瀬 山崎

☎073 441 2944（直通） FAX 073 425 0287

E-mail:yamasaki_t0004@pref.wakayama.lg.jp

第 62 回中国四国支部講演会の開催について（第 1 報）

農業土木技術者継続教育認定プログラム



1. 講演会

(1) 日 時：平成 19 年 10 月 25 日（木）

(2) 会 場：南予文化会館

〒798 0040

愛媛県宇和島市中央町 2 5 1

☎0895 24 6800 FAX 0895 24 6808

2. 情報交換会

(1) 日 時：平成 19 年 10 月 25 日（木）

(2) 会 場：ホテルクレメント宇和島

3. 現地研修会

(1) 日 時：平成 19 年 10 月 26 日（金）

(2) コース：南予文化会館発 国営かんがい排水事業東蓮寺ダム【現地研修】 経営体育成基盤整備事業永長地区【現地研修】 昼食 内子町（八日市・護国町並保存地区） JR 松山駅 松山空港着
行き先については変更する場合があります。

4. 問合せ先（講演会参加窓口と原稿提出窓口を別にしていただきますのでご注意ください）

(1) 講演会発表原稿提出窓口および問合せ先

農業土木学会中国四国支部事務局 村上 章

〒700 8530 岡山市津島中 3 1 1

岡山大学大学院環境学研究科社会基盤環境学専攻

TEL・FAX 086(251)8881
 E-mail sakura@cc.okayama-u.ac.jp
 (2) 講演会参加申込窓口および問合せ先
 愛媛県農林水産部農業振興局農地整備課設計係 関谷，
 門田，大塚

〒790 8570 愛媛県松山市一番町4丁目4-2
 ☎089 912 2540 (直通) 089 941 2111 (代表)
 FAX 089 921 9579
 E-mail: sekiya-katsuji@pref.ehime.jp

5. 詳細 本誌7月号に掲載予定です

第36回中国四国支部研修会・第31回地方講習会の開催について(第1報)

農業土木技術者継続教育認定プログラム



1. 日時

平成19年11月15日(木)から11月16日(金)

2. 会場

広島YMCAホール
 〒730 8523 広島市中区八丁堀7-11
 ☎082 227 6816 FAX 082 227 3867

3. 問合せ先

広島県農林水産部農林整備局農業基盤室企画調査グループ
 上田，山脇
 〒730 8511 広島市中区基町10-52
 ☎082 513 3650 (ダイヤルイン) 082 228 2111 (代表)
 FAX 082 228 1301

平成19年度農村計画研修会(第29回現地研修集会)について

農業土木技術者継続教育認定プログラム



1. 主催：農業土木学会農村計画研究部会

後援：奈良県，水土里ネット奈良(奈良県土地改良事業団体連合会)

協賛：農村計画学会

2. テーマ：歴史資産と現代の調和をさぐる 元気な地域づくりから美しい大和へ

3. 日時：平成19年9月6日(木)7日(金)

4. 会場：奈良県新公会堂能楽ホール

5. プログラム

- (1) 研修集会 平成19年9月6日(木) 9:30~16:45
 8:45~9:30 受付
 9:30~9:45 開会挨拶
 9:45~11:00 基調講演「現代科学から見た古代飛鳥の水利基盤(仮)」 京都大学名誉教授 三野 徹
 11:00~12:00 講演「奈良県における開発事業と埋蔵文化財の保護(仮)」 奈良県教育委員会主査 川上洋一
 12:00~13:00 休憩
 13:00~13:30 報告「奈良県の農業農村整備」 奈良県農林部次長 藤永和生
 13:30~14:10 事例報告「集落ぐるみで取り組む農業公園による地域活性化」 有限会社農業公園信貴山のどか村代表取締役社長 石井基之
 14:10~14:50 事例報告「棚田オーナー制の取組 明日香村稲淵地区の事例から」 明日香村稲淵棚田オーナー会会長 吉兼秀夫 (阪南大学国際コミュニケーション学部教授)
 14:50~15:20 情勢報告「農村整備を巡る情勢」 農林水産省農村振興局整備部地域整備課課長補佐 古賀 徹

15:20~15:30 休憩

15:30~16:40 パネルディスカッション

「歴史資産と現代の調和をさぐる」

コーディネータ

京都大学名誉教授 三野 徹

パネリスト

奈良県教育委員会主査 川上洋一

有限会社農業公園信貴山のどか村代表取締役社長 石井基之

明日香村稲淵棚田オーナー会会長 阪南大学国際コミュニケーション学部教授) 吉兼秀夫

森林インストラクター(飛鳥川の原風景を取り戻す仲間の会事務局長) 水谷道子

16:40~16:45 閉会挨拶

(2) 現地検討会 平成19年9月7日(金)

8:20 奈良県庁前 集合

8:30 奈良県庁前 出発

農業公園信貴山のどか村，明日香村稲淵棚田など

15:00 近鉄橿原神宮前駅 解散

6. 参加費用

現地研修集会参加費 6,000円

現地検討会 4,000円(昼食代1,000円含む)

7. 参加申込

参加をご希望の方は参加申込書(部会ホームページからダウンロードして下さい)に所要事項をもちろん記入の上，FAXまたは郵送にてお申込み下さい。原則として団体ごとにまとめてお願いいたします。申込み多数の場合は，定員400名に達し次第締め切らせていただきますので，あらかじめご了承下さい。

なお，台風等の災害で現地研修会が開催できない場合でもテキスト・資料代(3,000円)は申し受けますので，予めご了承下さい。

- (1) 申込期限 平成 19 年 7 月 20 日 (金)
- (2) 申込先 農村計画研修会現地運営事務局
〒630 8501 奈良県奈良市登大路町 30
奈良県農林部耕地課 担当: 植田, 寺本
☎0742 27 7453 FAX 0742 24 5179
- (3) 参加費の納入
申込みをいただきますと 8 月上旬に請求書をお送りしますので, 請求書の指定口座に振込んで下さい。なお振込み手数料は参加者負担でお願いします。
- (4) 申込の変更・取消
8 月 15 日 (水) までに現地運営事務局まで FAX にてお申

下下さい。それ以降の取消しについては, 参加費の返還ができませんので, あらかじめご了承ください。

8. 宿泊施設 参加者各自でお申込み下さい。

9. その他

詳細は, 部会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/bukai/keikaku/2007nara.htm>) をご覧下さい。

【現地研修集会に対する問合せ先】

農村計画研修会現地運営事務局
〒630 8501 奈良県奈良市登大路町 30
奈良県農林部耕地課 担当: 植田, 寺本

国際水田・水環境工学会 2007 年 (第 6 回) 国際研究集会の開催について

テーマ: 持続可能な農村開発と管理

PAWEES 2007 (6th) International Conference

On Sustainable Rural Development and Management

主催: 国際水田・水環境工学会

PAWEES: International Society of Paddy and Water Environment Engineering

共催: 韓国農工学会, 韓国農林省, 台湾農業工程学会, 農業土木学会

趣旨

国際研究集会「持続可能な農村開発と管理」は, 最近の技術のレビュー, また, それらの技術の持続可能な農村開発と管理への応用を目的として, 以下の内容の下に開催されることとなりました。

1. 持続的水管理
2. 農村計画と発展
3. 持続的環境管理

研究集会では, 多くの参加者にとって, 他国の地域社会のさまざまな分野の組織との専門的関係を高めるだけでなく, 水田・水環境工学, 農村計画と発展, 環境を考慮した生態学に関連した最新の情報や知識を共有しあう機会となることと思います。また, 我々の国際的な見解をさらに豊かにするため, 最新の研究結果や情報交換, 水田・水環境分野の中から優先的課題の抽出, 国際的研究に関する将来の方向性の議論, 実社会へ過去の研究成果を応用するための方法論の検討, 食の安全のための戦略の探求, 発展途上国の飢えと貧困の根絶, 農業コミュニティのための農村計画と開発等を行います。

主催学会の PAWEES は 2003 年 1 月に設立されました。設立の主な目的は, 第 3 回世界水フォーラムでも議論された水問題, なかでも非常に重要な役割を果たしている水田農業を, 流域レベルの資源・物質循環という観点から評価し直すとともに, 環境や人口扶養・貧困問題への効果といった統合的な視点を取入れた新しい技術・学術体系として水田農業工学を確立し, その国際化を図

ることが重要であるとの認識に由来しているものです。

水田・水環境に関連する研究・技術に携わっておられる方々にとっては, 意義のある研究集会です。奮って参加されますよう, お知らせ致します。

1. 日 時: 2007 年 10 月 18 日 (木) ~ 20 日 (土)
2. 場 所: 韓国 ソウル, ソウル国立大学 AT センター
3. テーマ: 持続可能な農村開発と管理
4. 講演発表の募集

下記内容に即した講演発表 (口頭またはポスター) を募集します。

1. 持続的水管理 (キーワード: 灌漑と排水, 社会的経済的評価, 多面的機能, 土壌の流失, 水文学, 水理学など)
2. 農村計画と発展 (キーワード: 資源の評価と活用, 地域情報の分析, GIS と RS, 設計と計画など)
3. 持続的環境管理 (キーワード: 拡散する汚染, 水質, 生態系の取り組み, 地球温暖化, 土壌管理など)

講演発表を希望する場合は, 平成 19 年 7 月 18 日 (水) までにアブストラクト (口頭またはポスター希望を明記) を提出する必要があります。選考委員会によってアブストラクトの審査を行い, その採否を発表希望者に連絡致します。採用された論文の著者には, 完全版下原稿を提出していただきます。なお, 口頭とポスター発表に関する割り振りについては, 希望に沿うように努力しますが選考委員会によって決定します。

アブストラクトの提出は, <http://www.ksae.re.kr/pawees2007> から申込用紙をダウンロードして, 必要事項を記入 (口頭またはポスター希望を明記) し, E-mail: pawees@ksae.re.kr へて送信してください。

アブストラクトは, 英 250 語以内 (表題, 所属, 氏名を除く)

です。

フルペーパーの執筆要領等は採択終了後 [http://www.ksae.re.kr/pawees 2007](http://www.ksae.re.kr/pawees2007) に掲載します。

使用言語は、英語です。

5. 主なスケジュール

1) 講演原稿

アブストラクトの提出期限 : 2007年7月18日(水)

原稿採択通知(Webサイト): 2007年7月30日(金)

採択原稿の提出期限 : 2007年8月31日(月)

2) 参加登録

登録申込用紙: [http://www.ksae.re.kr/pawees 2007](http://www.ksae.re.kr/pawees2007) よりダウンロードする。

登録期間: 2007年5月1日(火)~8月20日(月)

参加登録費: 50,000 ウォンまたは、50 US\$

講演要旨集は研究集会当日にお渡しします。

3) その他

宿泊に関しては、[http://www.ksae.re.kr/pawees 2007](http://www.ksae.re.kr/pawees2007) にソウル市内のホテル案内を掲載します。

プログラムは、[http://www.ksae.re.kr/pawees 2007](http://www.ksae.re.kr/pawees2007) に2007年8月20日以降に掲載します。

採用された論文は要旨集に印刷し、特に優秀な論文については、PWE(またはPWE特別号)に掲載する予定です。

6. 問い合わせ先

Dae-sik Kim, Ph. D, Conference Secretariat (研究集会事務局長)
Chungnam National University, 220 Goong-dong, Yooseong-gu,
Daejeon 305-764, KOREA

TEL: +82 42 821 5795, CEL: +82 10 9867 8418,

e-mail: drkds19@cnu.ac.kr

ICID 第20回総会における発表論文の募集について

2008年10月に、パキスタン・ラホールにおいて、国際かんがい排水委員会(ICID)第20回総会が開催されます。

ICID日本国内委員会は、下記の要領に従い、上記会議における発表論文を募集いたします。投稿をご希望の方は、別記の連絡先までご連絡下さい。なお、ご投稿頂いた論文は、ICID日本国内委員会で査読した後に、ICID本部事務局に提出します。また、スペシャルセッション、シンポジウム、セミナーの発表論文は各国1報となっておりますので、複数の投稿があった場合には、査読の結果1報を選定させていただきますので、予めご了承下さい。

1. 会議開催概要

開催期間: 2008年10月13日(月)~19日(日)

開催場所: パキスタン・ラホール

2. 発表者募集の対象会議 ICID 第20回総会

3. 募集テーマについて

【総会テーマ】Participatory Integrated Water Resources Management From Concepts to Actions (参加型統合水資源管理 概念から活動へ)

(1) Sustainable Integrated Water Resources Management

(持続的な統合水資源管理)

Knowledge base information management and dissemination of research in developing countries (開発途上国における知識基盤、情報管理、研究の普及)

Design and operation of irrigation systems for use of treated and partially treated wastewater, saline water or soils Limitations and opportunities (処理済及び処理が不十分な廃水、塩類化した水または土壌を利用するためのかんがいシステムの設計と運転 制限と機会)

Conjunctive operation of storage reservoirs for multi-

purposes (多目的な貯水池の共同運転)

Experiences on impacts of climate changes on water resources (水資源における気候変動の影響の経験)

Mineral tolerant plants in waterlogged and saline lands (湛水地及び塩類化地におけるミネラル耐性作物)

(2) Role of Public and Private Sectors in Water Resources

Development and Management (水資源開発及び管理における公共部門及び非公共部門の役割)

Performance of irrigation and drainage systems after modernization/privatization (近代化/民営化後のかんがい排水システムの実績)

Socio-economic aspects of agricultural production in developing countries (開発途上国における農業生産の社会経済的側面)

Technical, technological, economic and legal aspects of development, management and use of water resources of transboundary (interstate) rivers (越境河川の水資源の開発、管理及び利用の技術上、工学上、経済上、法律上の側面)

【スペシャルセッションテーマ】Implication of Global Changes on Irrigation and Drainage System Development and Management (かんがい排水システムの開発と管理における世界的変化の関わり)

【シンポジウムテーマ】Integrated Water Management in the River Basin Context (流域状況における統合水管理)

【セミナーテーマ】Lessons to Learn from the History of Water Management in Large River Basins and Drought (大流域における水管理と旱魃の歴史から得られる教訓)

4. 参加表明

2007年7月27日(金)までに参加希望会議, テーマおよび論文の著者名をご連絡下さい。

5. 作成要領

要旨と結論(Summary and Conclusion)を500~600ワードの英文で作成し, 2007年8月10日(金)までにE-mailでご提出下さい。連絡先著者の名字をファイル名としたワードデータ(例, 総研太郎の場合, souken.doc)とし, ページ冒頭に論文タイトル, 著者と共著者名, 所属, 各著者の住所, 電話番号, Fax番号, E-mailアドレスを記載して下さい(連絡先著者を最初に記載)。

日本国内委員会による査読の結果は, 2007年8月24日(金)頃までに通知します。また, 提出後, 要旨と結論がICID本部に受理された場合は, 2007年10月15日(月)までに通知があります。詳細は, ICIDのウェブサイト(<http://www.icid.org>)をご確認下さい。

6. 論文(Full Paper)の作成

Full Paperの作成要領は, 詳細な情報があり次第, 発表予定者にご連絡します。なお, Full Paperの日本国内委員会への提出期限は2008年2月1日(金)です。

7. 今後の予定

- ・日本国内委員会からICID本部事務局への論文著者名の連絡
2007年8月1日(水)
- ・ICID本部事務局への要旨と結論の提出
2007年9月1日(土)
- ・要旨と結論の受理の公示 2007年10月15日(月)
- ・ICID本部事務局のFull Paperの締切り
2008年3月1日(土)

8. 論文送付先および連絡先

〒151 0001 東京都港区虎ノ門1 21 17 虎ノ門NNビル
(財)日本水士総合研究所
☎03 3502 1576 FAX 03 3502 1329
担当: 池浦 弘 hiroshi-ikeura@jiid.or.jp
吉見 暁 satoru-yoshimi@jiid.or.jp

お知らせ

中山間地域フォーラム設立1周年記念シンポジウム 「中山間地域再生の最前線」の開催について

中山間地域フォーラムは, 中山間地域に熱い思いを抱く産学民官の有志が連携協力して地域の再生を支援すべく, 昨年からの活動を始めていますが, このたび設立1周年を記念し, 中山間地域の新しい動きを踏まえて国民的な議論を喚起すべく, 下記によりシンポジウム「中山間地域再生の最前線」を開催いたします。

記

日時 2007年7月7日(土)

会場 日本財団 2階会議室

(東京都港区赤坂1 2 2 地下鉄銀座線・南北線 溜池山王駅から徒歩5分)

日程 13:00~ 理事会

13:50~ 総会

14:30~ 設立1周年記念シンポジウム

「中山間地域再生の最前線 農業とコミュニティを考える」

- ・地域実践報告「農業振興による中山間地域再生」(交渉中)

「コミュニティー振興と中山間地域再生」山口県 田村尚志氏

・総括報告「コミュニティの再生と地域農業の振興」
秋田県立大学 佐藤 了教授

・パネルディスカッション(会場の皆様のご意見をいただきながら活発な意見交換を行います。)

コーディネーター 明治大学 小田切徳美教授

18:00~ 懇親会(別会場)

参加費 シンポジウム(資料代等)2000円, 懇親会 別途

申込み 中山間地域フォーラム事務局(eメール: sanka@chusankan-f.net/お問い合わせは, ☎029 838 7607 遠藤(農村工学研究所地域計画研究室)まで)

*シンポジウムには, フォーラム会員でない方の参加も歓迎します。

*中山間地域フォーラムでは, 中山間地域に熱い思いを抱く産学民官の方々の入会を募集しています。フォーラムの活動状況や入会申込み(会費無料)については, ホームページ <http://www.chusankan-f.net/> をご覧ください。